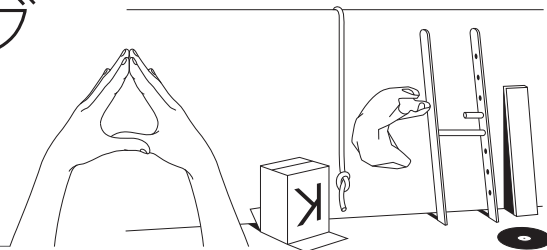


ウリチパン郡 ジャイアント・クラブ

Urichipangoon / "Giant Club"

23rd.Apr.2008 Release



AKICHI RECORDSが第2弾にリリースするのは、オーガニックでドリーミーかつエキスペリメンタルなサウンドで常に多くの音楽ファンの心を掴んできた、ウリチパン郡の約5年ぶりとなるアルバム。

2ndアルバムとなるこの『ジャイアント・クラブ』は2人ユニットであった1stアルバムからメンバーが4人に増え、幾多のライブ活動を経て、幅広くグロウイング・アップされて出来た優れた作品。

清白ゆえのストイックさで次世代ポップスの在り方と美学を追求した本作品は、これまでの日本語ポップスのフィールドを大きく広げ、ジャンル、年代を凌駕しながら色々なアングルから世界中の音楽を覗くかのような色彩感豊かなアルバムに仕上がった。丹念で細かく、創作性の行き届いた技術。琴線に触れるような歌とコーラスそしてメロディ。閃光のように瞬間的にきらめく、シンセアレンジ。往年の名ジャズ・ドラマーの貫禄を彷彿とさせる、ハード且つ繊細なリズム！

そんな彼らの音楽から感じるのは、いまだ見ぬ心の片隅に記憶する、どこか遠くて懐かしい所。巨人達が新しい表現を求めてたどり着いた神秘の地、ウリチパン郡へようこそ！

Artist : ウリチパン郡 Urichipangoon

Title : ジャイアント・クラブ GIANT CLUB (DDCA-7002)

Release Date : 23rd April 2008

Format : Audio CD

Sticker Price : ¥2,625 (without tax : ¥2,500)

Genre : J-Pop / Alternative

Pos Code : 4543 034 01502 3

Distributor : BounDEE (+81.3. 5766.1730)

Info. : Mao Yamazaki (+81.3. 5988.0171), Chiako Kudo (+81.6. 6459.2121)

mail address : mao_yamazaki@graf-d3.com

URL : www.akichirecords.com

[Tracks]

- | | |
|------------|-----------------|
| 1. ゼノン | 6. 奪うは陰 分けるは陽 |
| 2. パヤパヤ | 7. Boy |
| 3. 記憶のパノラマ | 8. アトランティス |
| 4. カルマブルース | 9. Limited Leaf |
| 5. テルマ | 10. ファン菌 |

全10曲



ジャケットオモテ面

About AKICHI RECORDS :

もう一つの視点を発見、考察する場、graf media gm (グラフィメディア・ジーエム) の活動から生まれた音楽レーベル。gm (ジーエム) が試みてきた「AKICHI (空き地)」的な環境作りを音楽という場で展開するためのプロジェクト。

AKICHI RECORDS is the new music label from Osaka based graf media gm, an alternative art space that has been attempting to create stimulating environments in order to discover and evaluate alternative perspectives and ideas. The new label tries to bring out what graf media gm has been pursuing; to create its own AKICHI (meaning empty-lot in Japanese)-like environment in music.

AKICHI RECORDS / graf media gm: n.o.n.

〒165-0024 東京都中野区松が丘2-32-6

tel: 03-5988-0171

fax: 03-5988-0181

e-mail: akichi@graf-d3.com

URL: www.akichirecords.com

www.myspace.com/akichirecords

2-32-6 Matsugaoka, Nakanoku, Tokyo 165-0024, Japan

tel: +81.3.5988.0171

fax: +81.3.5988.0181

e-mail: akichi@graf-d3.com

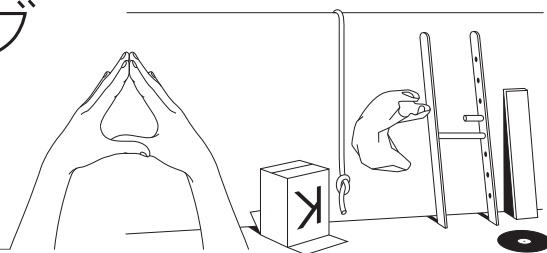
URL: www.akichirecords.com

www.myspace.com/akichirecords

ウリチパン郡 ジャイアント・クラブ

Urichipangoon / "Giant Club"

23rd.Apr.2008 Release



<ウリチパン郡プロフィール>

2003年OORUTAICHI(オオルタイチ)とYTAMO(ウタモ)により結成。完全なホームレコーディングで完成させた1stアルバム「せん」を奈良のインディーレーベルscilli disques(シリディスク)よりリリース。その後2004年ライブ活動に伴い、かねてより交流のあった(dr)千住宗臣、(key)亀井奈穂子がメンバーとして加入し、様々なイベントにおいてライブ活動を展開。さらにそれに伴いバンドサウンドへと移行し、スタジオでのセッションをもとに楽曲を構築していくスタイルへと変化させた。個々に活動していたメンバーが数々のセッションライブやスタジオワークを経て得てきたものが濃密に注ぎ込まれ、ジャンルのみならず、時代をも飲み込むフレキシブルなサウンドを生み出す結果となった。近年の大きな活動としては去る2006年7月に全国数カ所で行われ、UAなども参加したアルゼンチン音響派セッションに個々メンバーがそれぞれ出演。ファナ・モリーナなどのサポートなどで知られるフェルナンド・カブサッキ、アレハンドロ・フラノフ、サンチャゴ・バスケスらのアルゼンチンミュージシャンらとセッションライブを敢行。楽曲制作から即興演奏までをこなす、個性ある独自の活動を精力的に行っている。



OORUTAICHI-オオルタイチ- (Vo&G,Prog etc)

1999年より活動を開始。国内外のレーベルより数多く音源を発表。ジャンルや国を超越したトラックと非言語による歌、コーラスワークを駆使したサウンドで話題を呼ぶ。2003年1stアルバム「Yori Yoyo」(moroheiya /expoi) リリース。EP [OY] (out one disc) リリース。2005年EP「MISEN Gymnastics」をU.KのBEARFUNK よりIDJUT BOYSのリミックス入りでリリース。2007年9月にはロンドン、ダブリンにおいてツアーを敢行。喝采を持って迎え入れられた。

www.okimirecords.com

YTAMO-ウタモ- (Vo&Key etc)

2000年より活動を開始。数本の自主制作アルバムを経て2006年scilli disquesより1stソロアルバム「Limited Leaf」を発表。その他LD&K所属レゲエシンガー、カルカヤマコトのCD制作、ライブ演奏などの全てに参加。

www.ytamo.com

千住宗臣-センジュウ・ムネオミ- (Drums etc)

BOREDOMS、山本精一氏率いるPARAに在籍。またCOMBO PIANO(デヴィット・シルヴィアンのサポートメンバーに参加)のレコーディング&ライブに参加等、若手を代表するドラマーとして、レコーディングからライブ、アーティストサポートなど多岐にわたる活動をしている。

www.muneomisenju.com

亀井奈穂子-カメイ・ナホコ- (Key etc)

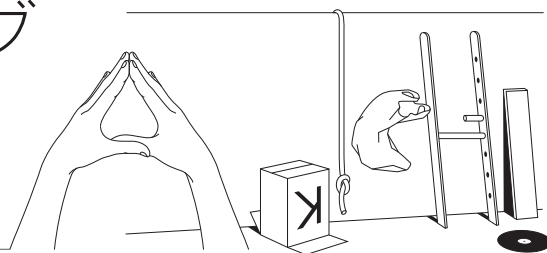
幼い頃よりクラシックピアノを学ぶ。

2002年より主にハルモニウム・ピアノ・バスクラリネット等を使つての即興演奏活動を精力的に行う。その後ほっこり系爆裂ブラスバンド「三田村管打団」にクラリネットで加入し、2006年アルバム「!」をmapよりリリース。その他鍵盤奏者としてライブセッションやスタジオワークなどを数多く行っている。

ウリチパン郡 ジャイアント・クラブ

Urichipangoon / "Giant Club"

23rd.Apr.2008 Release



POPSの究極のすがたは、わらべうたかな？

このアルバムを聴いていて、フトそんなことを思いました。

すごく時間をかけて、ていねいにつくってあるね。 坂本龍一

こんな音楽に出会えた事が嬉しくて仕方がない。間違いなく日本屈指のポップグループ。

アルタナティブなポップのひとつの極みであるのに、未来を感じる音楽だ。 トクマルシューゴ

黒潮にのってやってきた!?!こんな爽やか変態、聴いたことない。 UA

デジャヴュにも、予感にも当てはまらない正真正銘、生まれて初めて聞いた音なのです。

しかしながら、私の小指あたりの細胞が実に楽しげに弾けているところを見ると、どうやら現在の私には知り得ない記憶で繋がっていきそうな気がするわけで、、

ウリチパン郡の小気味良い謎は深まるばかり。 内田也哉子

「ウリチパン郡の国からこんにちは」

音楽から地域性が失われて久しい。農耕といった集団作業では、かろうじて、麦踏みの歌などのレパートリーが残ったが、産業革命以降、まず、機械がモノ作りのレパートリーの数々を奪っていった。しかしながら、機械の紡ぐリズムは我々を魅了し、それは新たな共感覚＝連帯を生み出していった。それはそのままテクノの誕生までつながるであろう感覚である。さて、地域コミュニティからネット・コミュニティに移行した現代、せつかく規模はWWWまで広がったのに、かつてあったスケールの大きな、全人類への呼び掛けのような歌（六文銭「旅立ちの歌」や三波春夫「世界の国からこんにちは」等）は、絶滅の危機に瀕している。誰もがチマチマとしたマーケティングで、友人が誉めてくれるような小規模コミュニティ・ミュージックしか作りやがらねえからだ。そんななかで、架空のフォークロアへの憧憬を音楽化し続けてきたウリチパン郡の新作は、まるで21世紀の理想郷での労働歌のようにスケールが大きい。ここに新しい広義の意味でのポップスが始まる予感がある。 岸野雄一

ウリチパン郡という地には、秘密の道があるという。世界の何処へも通じる、秘密の道。その道を知るのは、たった4人の音楽家。今ぼくらに必要なのは、世界を繋ぐ、彼らの音楽。 内橋和久

ウリチパン郡・新作に寄す

いつ聴いても不思議な音楽だ。

不思議だけど、でも、ずっと以前から聴いていたような感覚にもなる。

おそらくその理由は、この音楽が持つ、ある種の普遍性が、我々の琴線に触れるという事なんだと思う。特にメロディにはそのことを強く感じさせられる。このメロは、我々モンゴロイドが共通に持つ（宿す）タネが発芽したものだ。メロだけではない。声や、リズムや、曲自体のカタチや、全体の空気まで、なんとも懐かしい斬新さに襲われる。そして、それでいて、というか、それだからこそ、ウリチパン郡は、完璧に彼らだけの「律」を持っている。ちょっとこういう芸当はできないし、おいそれとこんなバンド出てこないのである。

平成二十年一月某日 山本精一